



佐世保市立歌浦小学校

所在地 佐世保市鹿町町下歌ヶ浦 7 9 1 番地 1 1

校 長 内野 義和

児童数 9 5 名 学級数 8 学級

学校教育目標…やさしい心 夢かがやく 歌小の子どもの育成

目指す子ども像…「つよく」・「かしこく」・「あたたかく」

今年度重点目標…「できた！」からつくり いかし かわっていく！



- 1 確かな学力を育てる教育の推進
- 2 豊かな心を育てる教育の推進
- 3 たくましい体をつくる教育の推進
- 4 信頼される学校づくりの推進

1 目 的

- (1) 学社融合、異校種交流、中学校区学校間交流の充実をめざした体験学習と交流学习を推進させることで、確かな学力と児童のコミュニケーション能力の育成をめざし、豊かな心を育むとともに、ふるさとへの愛情を深める。
- (2) 児童の学習状況を把握し、学び合う学級づくりと国語科、及び算数科の授業改善を展開し学力向上をめざす。また、サポートティーチャーによる授業支援（算数科の個別支援）を行うことにより、学習理解や活動に遅れの見られる児童に対応し、基礎学力の定着を図る。さらに毎週金曜日の始業前に実施するチャレンジタイムにおいても、サポートティーチャーによる学習支援を行い、学力向上をめざす。
- (3) 地域や保護者との連携により、ボランティア活動の充実と教育環境の充実をめざす。（登校時の見守り・あいさつ運動、本の読み語り活動）

2 主な実践内容

(1) 全校での主な実践

① 地域サポートティーチャーによる学習支援（全学年）

2年生～6年算数の授業へのサポートティーチャー（1名）による学習支援と、1年生の学習全般へのサポートティーチャー（2名）による学習支援を実施した。

さらに、基礎学力定着のために、毎週金曜日の「算数チャレンジタイム」を、始業前に15分間実施した。

このスキル学習の時間は、担任とチャレンジティーチャーの2人体制で学習支援を行った。



② ボランティアによる登校時の見守り活動

朝の登校時には、ボランティアとして地域の方や校長・教頭他、担任等も通学路に立ち、安全見守りとあいさつ運動を行った。また、民生委員と担任及び全学年の児童による校門でのあいさつ運動も毎月12日に実施した。



③ 読書活動の充実

読書活動の充実に向け、図書委員会の児童

が定期的に図書室の本をコンテナに入れて、全学級に配本して、子どもたちが色々な本を手にとることができるようにした。また、毎週月曜日の朝は、図書ボランティア「アリスの会」の皆さんによる本の読み語りをを行った。絵本や紙芝居を使った読み語りは、読書への興味関心を高める活動の一つとなっている。



④ かがやき広場

本年度から2月に実施している年度最後の授業参観を「かがやき広場」と名づけ、ミニ学習発表会を行った。国語科や音楽、総合的な学習で学んだことを中心に発表した。特に3年以上の学年は、総合的な学習で取り組んだ鹿町の歴史や自然、産業等を題材にしたものが多く、発表をとおして、故郷を思い愛する気持ちを高めることができた。



⑤ 保・幼・小・中連携

11月の芋掘りや2月の給食交流会には近隣の保育所や幼児園児を招待して、共に学校給食を楽しんだ。幼児園児のお店屋さんごっこでは、招待を受けた5年生が園に出向き、共に活動して交流を深めた。

また、夏には隣の鹿町小学校と5年生が合同で宿泊体験学習を行い、2日間に渡る児童相互の交流を楽しんだ。

⑥ 地域との連携

3年生のスイートコーン栽培や水産教室、4年生の町内施設を利用した福祉体験、5年生の米作り体験学習や宿泊体験学習、そして6年生の鹿町町歴史探訪等、ゲストティーチャーの指導を受けながら充実した学習に取り組むことができた。自分たちの知らない町の良さを改めて発見することで、今まで以上に故郷を愛する気持ちが高まったようである。また、12月の鹿町パールマラソンには4年生以上が全員参加し、地域と一体となった教育活動を展開した。



⑦ 朝のランニング

週に3回、始業前に全校で体力づくりに取り組んだ。特にパールマラソン前には、各自で目標を設定し、その達成に向け意欲的に取り組むことができた。教職員もこの体力づくりに参加し、子どもたち一人一人に励ましの言葉をかけて体力づくりを推進した。本校の5分間ランニングは、自分のペースで止まらずに走り続けるという約束で、苦しくてもねばり強く頑張りぬく力を育てている。この朝の活動は、朝の目覚めを促して学習意欲の向上に役立っている。



(2) 各学年の主な実践

① 全学年によるサポートティーチャー「通年」

地域の元教員の方々3名に授業に入ってもらい、個別支援を充実させた。特に1年生は、ひらがなの指導時にもきていただき一人一人に応じた指導を充実させることができた。



② 3年生による野菜の栽培活動「スイートコーン栽培」〔4月～6月〕

地域の畑で、スイートコーンの苗植えから収穫までの一連の栽培活動を行った。収穫後は、日頃お世話になっているサポート先生や全校児童にも、たくさんのスイートコーンを配り、多くの人たちと収穫の喜びを分かち合うことができた。

③ 4年生による福祉体験学習〔11月～12月〕

校区内にある高齢者施設「つつじの郷」を訪問し、バリアフリーについて学んだり、福祉用具の体験活動を通して、体の不自由な人への理解を深めたり、働く人の思いにふれたりした。児童は、お年寄りと交流することで、接し方を学び、交流する楽しさを感じることができた。



④ 5年生による米の栽培学習〔5月～12月〕

校内の水田を利用し、田の草取りから、種もみ選び、種まき、苗作り、しろかき、田植え、草取り、稲刈り、脱穀等の全ての作業をサポートティーチャーの指導のもとに取り組んだ。子どもは、夏休みも含め、水の管理や害虫の駆除を行った。また、1本苗・3本苗・5本苗・7本苗と分けて植えた株の分けつの様子を継続して観察した。収穫後は、できた米で、サポートティーチャーや保護者と一緒におにぎりパーティーを行い、収穫の喜びを分かち合うことができた。



⑤ 6年生による探究学習「ふるさとの未来がよりよくあるために」〔10月～2月〕

「自分たちの住む町・鹿町町について、もっと調べてもっともっと好きになろう」を合言葉に、ふるさと学習に取り組んだ。町の昔のことをよく知る方をゲストティーチャーとして招き、写真を見せていただきながら、炭鉱で栄えた時代について調べ学習を行った。また、今の鹿町町を支えている主産業の一つである漁業についても調べる活動をとおして、漁業の繁栄のために、このきれいな海をさらにきれいにして後世へ伝えていく必要がある、という思いを強くもつことができた。

2月には、本学習の総仕上げとして、ため



き絵で有名な堤けんじさんにゲストティーチャーとして来ていただき、ふるさと・鹿町をクレパス等で表現する活動の指導をしていた。このような活動をとおして、さらに鹿町町を愛し、誇りに感じる児童が増えてきたことをとても嬉しく思う。



(3) 校内研修の充実

- ① 今年は、算数科を中心に「先行学習」、国語科を中心に交流（対話）活動に取り組み、授業実践を通して教師の授業力向上と児童の学力向上を図った。また、6月と8月の2回に渡り、授業インストラクター鏑木良夫氏を招聘し、模擬授業や講義をしていただいた。特に8月の研修では、終日、算数や国語の模擬授業だけではなく、校内研修の指導案検討にまで参加していただくなど、非常にためになる研修を行うことができた。
- ② 次のことを重点的に指導することで、学びの風土を築く学習基盤づくりを進めた。
 - ・ 学び合う学級づくり
(ペア学習、グループ学習)
 - ・ 学習規律の確立
 - ・ 「学習の足跡コーナー」の充実
 - ・ スキルタイムの充実
 - ・ 国語辞典活用による語彙力の強化
 - ・ 家庭との連携
 - ・ 学習に集中できる環境づくり
(OK筆箱やOK机の徹底)



3 成 果

(1) 学力向上

- 今年は、国語科と算数科における先行学習を取り入れた授業実践や、国語科を中心に交流（対話）活動の授業実践を積み重ね、授業改善を図った。鏑木良夫氏を2度にわたって招聘し、長崎市立大園小学校の先生にも参加していただき、研究を深めることができた。また、授業実践を重ねていく中で、本校児童の伸び悩んでいる学力（表現力・対話力等）も明確となったため、先行学習を基本としながらも、コミュニケーションを重視したペア学習やグループ学習を取り入れる本校独自の授業スタイルを確立することができた。児童の実態を踏まえた授業実践に取り組むことで、さらに本校児童の学力向上を目指すことができた。
- 学習用具について全職員で共通理解を図り、一斉指導と家庭への啓発を行った。また、家庭学習の手引きも配付して、家庭学習の習慣化に力を入れた。家庭生活を見直す「すくすくカード」も年間4回実施し、学校評価においても、「子どもは家庭学習を、毎日時間を決めて行っている」の評点が3、0と昨年度から0、2ポイント上昇した。
- 全学年で、辞書を使う活動を取り入れることで語彙力強化を進めた。

(2) ボランティアによる学習支援

- 「チャレンジタイム」では、全学年の児童が算数と国語のスキル学習に取り組んだ。算数の時間には地域から6名の方がチャレンジ先生として学習支援に入った。また教務主任、養護教諭などもチャレンジタイムの学習支援に参加しており、基礎・基本の力が定着した。
(5年生：県学力調査では県平均より国語科5.4、算数科3.9ポイント上回った。)
- 学校評価の「学習では、途中であきらめたり、投げ出したりせず根気強く取り組ん



でいる」の項目を見ると、評価結果（４段階評価）で児童評価は3.5と高く、複数体制での学習支援が学習へ取り組む態度の育成につながっている。

（３）地域とともにある学校づくりの推進

- 昨年度まで１１月に実施していた「かがやき広場」（学習発表会）を、規模を縮小し２月に実施した。各学年ともに１年間のまとめとして、故郷学習や地域の方から学んだことを発表した。当日は保護者も含め１４２名の方が来校し発表を見てくださった。子どもたちもこれらの学習をとおして、故郷を大切に思う気持ちがぐいに高まった。
- 地域と一体となった登校時の見守り活動やあいさつ運動は本校の伝統であり、校長をはじめとする本校教職員も参加し、笑顔であいさつが交わせる安心安全な町づくりに大きく貢献した。
- 学校評価の「学校の指導方針に共感でき、特色ある教育活動に満足している」や「授業参観や行事を通して学校は保護者や地域との連携の機会を多く設けている」の両項目については、保護者の評価で3.5という結果を得ることができた。本校の教育活動が地域や保護者から認められていることがわかった。



（４）各学年の体験活動

- 地域の畑における３年生のスイートコーン栽培や５年生の米作りは、数ヶ月にわたり、雑草をとったり、水を与えたりして、作物を育てることの苦労と収穫の喜びを学ぶことができた。特に５年生の米作りでは、栽培の過程で起こる様々な問題を課題に設定していくことで一人一人がさらなる解決に向けた学習に取り組むことができた。

また、４年生の福祉体験では、福祉施設の紹介や、そこに通うお年寄りの方々と触れ合う中で、たくさんの思いに気付くことができた。さらに本年度は、施設の方をゲストティーチャーとして招き、福祉についても多くを学ぶことができた。このような地域の大人との関わりは、あいさつや感謝の気持ちを学ぶ場として社会性を育てる貴重な体験となっている。児童の生きる力を育てていくためにも、これからの体験活動を今後も継続していく。

